

はじめに

少子化や人口減少、グローバル化の進展、国際情勢の不安定化、気候変動への対応などにより、社会は複雑さと不確実性を増しています。近年は生成AIをはじめとする高度なデジタル技術が急速に進展し、教育を含む社会全体で、知識の獲得や情報活用、表現や創造の在り方に大きな変化をもたらしています。このような時代において、子どもたちが生きる未来は予測困難です。そのため、そうした時代を生き抜くために、自ら問いを立て、他者と協働しながら課題を解決し、新たな価値を創造する力が、これまで以上に求められています。

こうした社会の変化を背景に、我が国では「令和の日本型学校教育」の実現を柱に、学習指導要領の着実な実施と教育改革が進められてきました。個別最適な学びと協働的な学びの充実、ICTを活用した学習環境の高度化、GIGAスクール構想の次段階を見据えた取組など、学校教育は新たな局面を迎えています。また、生成AIの教育利用については、可能性と留意点を踏まえ、思考力・判断力・表現力の育成につなげる適切な活用が求められています。

現在、次期学習指導要領に向けた議論が進められ、知識習得にとどまらず、探究的な学びや対話を通じて深く考える力を育むこと、多様な背景や特性をもつ子どもの学びを保障する視点がいっそう重要になっています。

今年度の当センター研究発表会では、「誰一人取り残さない『豊かな学び』の実現を目指して」をテーマに掲げ、文部科学省初等中等教育局教育課程課長・武藤久慶氏にオンラインで御講演いただき、次期学習指導要領を見据えた学校教育の在り方について御示唆をいただきました。

研究発表・協議では、自己調整力の育成を目指したAARサイクルによる学習過程の改善、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善、特別な支援を必要とする子どもの卒業後を見据えた進路支援など、多様な子どもの学びを支える実践的成果が報告されました。県立高等学校教育課程課題研究では、国語・数学・情報の3教科から、学習評価の工夫やICT活用による授業改善の取組が示され、誰一人取り残さない学びの具体策が共有されました。

これらの研究は、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、全ての子どもが学ぶ喜びと成長を実感できる学校づくりに資するものです。教育改革を支えるのは、日々の教育実践を積み重ね、子どもの可能性に向き合う教職員の不断の努力です。教師が自らの実践を省察し、専門性を高め続ける「学び続ける教師」として成長することが、学校教育の質を支える基盤となります。研修履歴を活用した対話型学びの仕組みが定着しつつある中、教職員が互いに学び合う学校文化の形成は、今後ますます重要です。

本紀要には、令和7年度教育研究調査事業から研究発表会で報告された成果を収録しています。日々の授業や校内研修で活用され、子どもたちの学びの質の向上に結び付くことを期待します。なお、本紀要は当センターのウェブページ及び図書資料室で閲覧でき、過去の研究成果や教材も提供していますので、ぜひ御活用ください。

結びに、本紀要刊行にあたり、教育研究調査事業に多大なる御協力をいただいた関係者の皆様に心から感謝の意を表しますとともに、今後とも忌憚のない御意見・御助言を当センターにお寄せくださいますようお願い申し上げます。

令和8年3月

愛知県総合教育センター
所長 渡部 純次